

大館の拠点 受注好調

DNA抽出装置 試薬製造

DNA抽出装置製造のプレシジョン・システム・サイエンス（PSS、千葉県）の試薬開発・製造拠点として、大館市花

岡町の花岡工業団地で昨年11月に本格稼働した「大館試薬センター」の受注が好調だ。初年度に当たる2015年6月期の出荷額は当初計画を大きく上回る見込みで、雇用を増やして対応。将来的には工場増設も検討する。

将来的には工場増設も検討する。

あきた 経済

ピーエス敷地内に大館試薬センターを新設した。富山市の工場をセンターに集約し、今後は装置と試薬の開発・製造を一貫して行える態勢を整える。

PSSは当初、フランスの診断薬大手エリテックから受託した試薬の製造に合わせ、今年2月からセンターを稼働させる予定だったが、アボット社向けの受注も決まったことから、計画を3カ月前倒しした。受注増に対応するため、初年度の新規雇用は当初計画の8人から23人に増員。2月には、装置と試薬を合わせた連結売上高（2015年6月期）の予想を45億円から50億円に上方修正した。

世界の遺伝子診断市場は、従来の研究開発機関向けだけでなく、感染症の診断やDNA鑑定、遺伝子解析サービスなどの臨床分野に急速に拡大している。市場規模は現在の1兆円から22年は5兆円まで伸びると予想されており、試薬の需要は大幅に増えることが見込まれている。

大館試薬センターの長岡信夫センター長は「大館工場の増設も視野に入れ、引き続き受注拡大を図っていく。20年の出荷額20億円を目指したい」と話している。将来的な雇用は50人程度を見込む。

PSSは、臨床検査機器のメンテナンス会社として1985年創業。95年にDNA自動抽出装置の製品化に成功した。資本金22億1700万円。従業員数約190人。2014年6月期の売上高は39億2100万円。（三戸忠洋）



センター内の試薬製造工場

PSS社(千葉) 工場増設も検討

PSSの主力は、遺伝子検査に必要なDNAを血液や細胞から取り出す装置で、自動化技術の特許を持つ。誰でも簡単に取り扱えるのが特長で、東日本大震災の犠牲者の身元確認や、エボラ出血熱の診断にも使用されたという。

装置は花岡工業団地内の子会社エヌピーエスなど国内3カ所で製造し、大半をロシュ（スイス）やアボット（米国）といった医薬品世界大手にOEM（相手先ブランドによる生産）供給している。1996年の発売以来、出荷台数は1万台を超え、世界シェアは5割を占める。

装置に使用される試薬について、PSSはこれまで富山市の子会社で製造していたが、生産能力増強のため、4億2800万円を投じてエヌ